

TGR TEAM ZENT CERUMO

2020 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 300km RACE

第6戦 鈴鹿サーキット

ZENT GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆10月24日（土） QUALIFY

公式予選結果 7位



2020年のSUPER GTも、シーズン終盤戦と言える第6戦を迎えた。TGR TEAM ZENT CERUMOは第5戦を終えた段階で30ポイントを獲得しランキング6位につけているが、上位陣との差もややつき始めている。10月24日（土）に開幕した第6戦は、2020年シーズンのチャンピオン争いを考えると、チームにとっては決して落とせないラウンドと言えた。特にランキング上位は重いウエイトハンデに苦しんでいる状況。当然ZENT GR Supraもハンデはあるが、比較的軽い。ここで大量得点を重ね、ふたたびチャンピオン争いに名乗りを上げたいレースだ。

そんな第6戦に向け、TGR TEAM ZENT CERUMOは入念に準備を整え鈴鹿に乗り込んだ。舞台となる鈴鹿は第3戦でトップ争いを展開しており、トラブルさえなければ表彰台も見えていた。それだけに好材料も多かったが、それをたしかなものにするべく、午前9時20分にスタートした公式練習に臨むことになった。

この日の鈴鹿サーキットは晴天。第5戦富士に続き、SUPER GT観戦を待ちわびたファンがスタンドを埋めるなか、ZENT GR Supraは立川祐路がステアリングを握りコースイン。セットアップの確認を行っていく。立川の感触は非常に良く、タイムも良好。立川は1分46秒703というベストタイムをマークし、

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

T-SELECT

トヨタ東大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

ADVICS

TGR TEAM ZENT CERUMO

20 周をこなすとピットイン。石浦宏明に交代した。

石浦は予選に向けたタイヤの比較等を行いつつラップを重ねていくが、石浦のフィーリングも良い。タイヤも決勝レースを見据えたものを選び、専有走行の時間には 1 分 45 秒 921 というタイムをマーク。ZENT GR Supra は 4 番手で公式練習を終えることになった。



当然、この第 6 戦はウェイトハンデがシーズンで最も重いレースだが、今季なかなか結果が残せていないチームはまだハンデが軽い。オーバーテイクがしづらい鈴鹿では、そういったマシンたちの前からスタートすることも重要だ。午後の公式予選では、立川と石浦のふたりはライバルたちに先んじるべく、アタックに臨むことになった。

午後 2 時からスタートした公式予選は、引き続き晴天のもと迎えた。GT300 クラスの Q1 で赤旗中断があったことから 6 分遅れでスタートした GT500 クラスの Q1 で、ZENT GR Supra のアタッカーを務めたのは石浦。しっかりとタイヤをウォームアップさせていざアタックに入ろうかとしていた石浦だったが、#23 GT-R がダンロップコーナーでクラッシュを喫してしまい、赤旗中断となってしまう。



石浦は一度ウォームアップをさせていたタイヤで再度アタックに入ることになる厳しい状況となっていたが、それはライバルたちも同様だ。再開後、ふたたびコースインした石浦は、時間が少ないなかでもしっかりとタイヤを温めると、1 分 46 秒 215 というタイムをマーク。7 番手につけ、見事

Q2 進出を果たすことに成功した。

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
RACING

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

T-SELECT

トヨタ東大

BBS

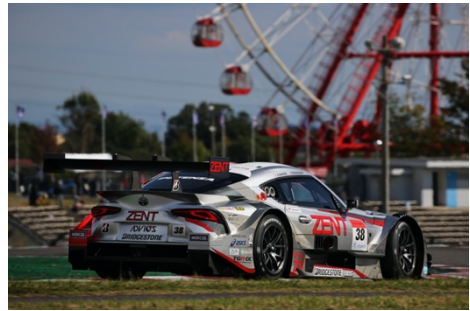
SHOWA
BRAKE FLUID

M
RACING GEAR

TGR TEAM ZENT CERUMO

しっかりとバトンを受け取った Q2 担当の立川は、午後 3 時 31 分からスタートした Q2 でコースに入ると、タイヤを温めアタックに入っていく。午前と同様、ZENT GR Supra のフィーリングは良好だ。さらなる上位進出も可能なはず……と立川は気合を漲らせアタックに入った。

しかしその気合があふれてしまったか、日立オートモティブシステムズシケインで、ZENT GR Supra はわずかにリヤがロックしてしまう。アウト側のグリーンにはみ出てしまい、すぐにコースには戻ったものの、タイムを失ったのは間違いなかった。立川がマークしたのは 1 分 46 秒 664 というタイム。7 番手ではあったものの、立川にとってはやや悔しい結果となってしまった。



とはいえ、ZENT GR Supra のフィーリングが良いのは間違いない。しかもウエイトハンデの状況を考えれば、さらなる上位進出も可能なはずだ。TGR TEAM ZENT CERUMO は気持ちを切り替え、10 月 25 日（日）の決勝レースに臨んでいく。

ドライバー／立川祐路

「午前の公式練習からクルマのフィーリングは良く、予選に向けても何もクルマを変えなくてもいいくらいの状況でした。ただ、ウエイトハンデが軽いライバルたちが上位に来ていましたからね。もっと前の位置にいくために、公式予選でも“全集中”で挑みました。ただ、シケインで少し飛び込みすぎてしまい、リヤタイヤがロックしてしまいました。自分が頑張りすぎたためのミスなので残念でしたが、きちんと決めたかったですね。自分のミスはしっかり明日取り戻すつもりで頑張りたいと思います」

ドライバー／石浦宏明

「自分たちにとっては、チャンピオン争いを考えると厳しい状況に追い込まれているなか、ここで大きいポイントを獲ればチャンスもあると思っています。事前からいろいろな準備をしてきましたが、それもあり走り出しからレベルが



TGR TEAM ZENT CERUMO

高い状態で戦えています。予選も不安はあまりなかったのですが、赤旗中断もあり難しい状況もありました。そんななかで Q1 を突破することができたのは良かったです。また今日は、順調に進んでいた分、決勝を見すえた準備もできました。余裕をもって取り組めているので、ウォームアップでもまた次の段階を目指せると思います。決勝に向けて万全の状況で臨みたいと思っています。自分たちの前に自分たちより重いクルマはいないので、ハンデが軽いクルマを抜いて、上がっていけるようにしたいと思っています」

村田淳一監督

「今回は持ち込みの状態からフィーリングが良く、公式練習からドライバーたちのコメントも明るいものが出ていました。タイヤ選択に悩むことにはなりましたが、決勝に向けていい選択ができたのではないかと思います。予選では Q1 をしっかり突破してもらい、Q2 でもセクタータイムでは 4～5 番手につけられそうな印象はありましたが、最終的にはシケインでのミスもあり、7 番手という結果となりました。ただ、ドライバーがひとつでもいい順位につけようと努力した結果ですし、クルマやタイヤを壊したわけでもありません。タイムが出ることは分かっていますので、なんとか順位を上げてフィニッシュしたいと思います。第 3 戦鈴鹿も途中までは良い戦いができていましたので、ミスなく良い戦いをし、残り 2 戦でタイトル争いができるようなレースをしたいと思っています。引き続きご声援よろしくお願い致します」



TGR TEAM ZENT CERUMO

予選結果表

Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
1	8	ARTA NSX-GT	1'44.963	1'45.478
2	64	Modulo NSX-GT	1'45.054	1'45.218
3	19	WedsSport ADVAN GR Supra	1'45.348	1'45.036
4	12	CALSONIC IMPUL GT-R	1'45.615	1'45.698
5	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	1'45.890	1'45.917
6	16	MOTUL MUGEN NSX GT	1'45.920	1'46.254
7	38	ZENT GR Supra	1'46.664	1'46.215
8	100	RAYBRIG NSX-GT	1'46.907	1'46.254
9	17	KEIHIN NSX-GT		1'46.529
10	14	WAKO'S 4CR GR Supra		1'46.673
11	37	KeePer TOM'S GR Supra		1'46.796
12	36	au TOM'S GR Supra		1'46.805
13	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R		1'46.954
14	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra		1'48.324
	23	MOTUL AUTECH GT-R		タイム抹消

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

YMS

T-SELECT

トヨタ東大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

ADVICS